平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果　（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3092100043		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名	グループホーム潮風ひだか　【ユニット名：しらなみ　】		
所在地	和歌山県日高郡日高町小池23		
自己評価作成日	平成26年1月6日	評価結果市町村受理日	平成26年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3092100043-00&PrefCd=30&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52　ハラダビル2F
訪問調査日	平成26年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・生活の中で入居者様の役割、楽しみが持てるよう心がけています。
・理念に沿った介護が出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

小高い山々に囲まれた田園地帯に位置し、四季の移り変わりが味わえる環境にある。入居者と共に笑顔で楽しく1日が過ごせることを日々の介護の基本として、職員同士が情報の共有に努め、一人ひとりに合った接し方を工夫している。個々の入居者の思いを尊重し、ありのままを受け入れることができるよう、見守りを重視したケアに努めており、職員の声かけで、リハビリに意欲的に向かっている入居者に、他の入居者も触発されるなどの相乗効果もみられ、互いに影響し合い、より良い生活が送れるよう取り組んでいる。 馴染みの人・場所とのつながりを大切にした支援がなされ、入居者の外出にも力を入れており、家族・友人・知人の訪問も多くみられる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		〇	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		〇	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		〇	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		〇	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		〇	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		〇	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		〇	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		〇	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に「今日も明日も笑い合おう。なじみの暮らしをいつまでも」というユニット理念を作り、職員が共通の姿勢でより良いケアに向けて取り組んでいます。	職員と入居者が作ったユニットごとの理念がそれぞれの居間に掲げられている。、みんな一緒に笑顔で楽しく過ごせるよう、ユニット会議で話し合い、理念を共有しており、工夫して実践に繋げている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園での行事に参加させて頂いたり、近隣の喫茶店へ行き交流の機会を設けています。また、入居者様の近隣の方や友達なども訪問されています。	保育園の七夕会や敬老会に招待され出かけている。地域の商店に事業所のポスターを張らせてもらった結果、入居の申し込みにつながっている。	事業所がどんなところなのか、地域の中で理解されにくい部分もあり、気軽に声を掛け合う関係作りのためにも、地域の自治会への加入にも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員教育に力を入れ、各職員が地域の方の相談や地域貢献ができるよう努めています。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会を通じて家族様や住民の方に事業所のサービス内容を知ってもらい、意見や要望をサービスに反映できるよう努めています。入居者様が関われるよう計画していますが現段階では実現できていません	行政担当者、近隣住民、民生委員、家族の参加で開催されている。事業所の現況や行事、ヒヤリハット事例等を報告し意見を求めている。内容はユニット会議にも出され今後に活かした取り組みが検討されている。	会議への家族の理解と参加への協力が得られるよう、日時を考慮したり、会議内容を報告するなどの工夫が求められる。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各市町村の担当者に入居者様や事業所に関する連絡、相談をしています。また、運営推進会議等の報告で定期的に訪問し関係を築いている。	7つの市町村の担当者とは顔なじみの関係であり、些細なことでも、常に相談し合っている。各地のケア会議にも参加し意見を伝えている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修計画に組み込み、職員全体が理解できる様取り組んでいます。また、普段のケアを工夫し入居者様の行動を制限しないよう努めいています。	年1回研修を行い、当日不参加の職員には資料を渡して一緒に内容を確認している。普段から玄関に鍵をかけず、入居者は職員が見守る中で自由にしており、本人の意思を尊重するケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても研修計画に組み込み、虐待の早期発見や見過ごすことがないよう取り組み、日々のケアの中で状態を観察しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村の担当者に権利擁護、成年後見制度に関する研修を依頼し、理解が深まるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を説明する際は、本人様や家族様の納得がいくまで説明させていただき同意を得てます。また、契約後でも不明な点があればその都度説明させて頂いてます。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図り、電話連絡以外でもEメールやファックス等で連絡をとり家族様の意見が聞けるよう努めています。得た意見は共有しケアに反映しています。	家族の訪問時には十分話を聞くよう心がけ、来られない家族にはこちらから出向いて話を聞いている。意見はノートに記録され、職員間で共有し運営に反映している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の業務の中で意見や要望を聞き、ユニットへ反映できるよう努めています。	管理者は、日々の業務の中での意見を大切にし、意見が出やすい雰囲気に努めている。ユニット会議では事前に各自が記入した意見を取り上げ、細やかな事まで話し合われ、ケアに反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や個性に応じて役割分担をし、報告や相談を密にとり、進捗状況や努力に応じた福利厚生制度を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修に際して勤務調整を行ったり、実践者研修、リーダー研修に際しては資金援助を行い、知識、技術の向上に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の方と現状の課題点や疑問点について意見交換をさせて頂いてます。また、本社の理学療法士に定期的に来ていただき、ユニット内で出来るリハビリ等の勉強もさせて頂いてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人様の現状を把握し、困っている事や求めていることを受け止めそれをサービスに組み込み、安心した生活が送れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまでに不安な事や希望を聞き出せるようコミュニケーションを図っています。また、入居後も些細な会話をできるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際には本人様及び家族様のニーズを見極め、適切なサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を尊敬、尊重し、日々のケアを通じて多くのことを学ばせて頂き互いに支え合う気持ちで接するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や敬老会に家族様を招いて一緒に祝ったり、普段の生活の中で協力を得ながら本人様を支えて行けるよう努めています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活していた近隣の方や友達等が面会に来られた際にゆっくり過ごして頂けるよう心がけています。また、入居前からの行きつけや馴染みの場所に出掛けたりもします。	馴染みの場所へのドライブで、昔の話を聞かせてもらったり、入居前の地区の敬老会に出かけられるよう計らったりして、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話や関わりを持ちやすいよう、必要に応じて職員が間に入り同じ空間、時間を共有できるよう努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて家族様の相談に応じたり、本人様にも会いに行かせて頂いてます。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で入居者様の想いを汲み取れるようセンター方式を用いて、希望や意向をケアに反映するよう努めています。	職員は一人ひとりの意向の把握に努め、入居者がどの様な思いを込めて話しているのかを感じ取り、安心できる声かけができるよう心がけている。入居者の言葉は、ノートに記録され、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族様に今までの生活歴や環境等の情報を聞き、入居者様や家族様の意向を生活の中で実現できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの趣味や趣向を取り入れ、メリハリのある生活が継続できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、家族様の意向や意見を取り入れ計画書を作成し、入居者様の状態の変化に柔軟に対応できるようケアカンファレンスを行なっている。	日頃から家族の意向を聞いたり、モニタリング前は、電話や手紙で尋ね、ケア会議で日々の生活の記録や職員の意見も聞いて作成しているが、事前の情報が計画に十分生かしきれていない面もみられる。	職員同志が共有でき、解りやすく実践しやすい介護計画書づくりを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を基に申し送り時に職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅や行きたい場所へ職員や家族様と出掛けられたり、病院受診の援助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方にお越しいただき、残存機能の活用及び楽しみが持てるよう協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族様が希望される主治医に依頼し、定期的な訪問診療や受診を実施しています。	入居時に、本人・家族の希望を聞いて、かかりつけ医を決め、往診にも来てもらっている。家族で受診する時は、事前に本人の情報を伝えている。家族で受診できない時は、看護師や職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員が日々の情報を共有し、主治医と連携し健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に定期的に面会し、医療スタッフと情報交換を行い連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期対応の指針や事業所での出来るyことを説明しています。また、終末期の対応時は主治医や看護師と連携を密に取り、必要に応じて家族様が泊まれるように努めています。	入居時に看取り指針を基に説明し同意をもらっている。状況が変化する毎に話し合いの場を持ち、看護師を中心に家族・スタッフが納得のゆく終末期を迎えられるよう努めている。この1年間に、家族が泊まり込み、家族と共に看とりを行ったケースもみられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日高広域消防本部の協力で応急手当を学習する機会を設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に近隣住民の方に参加していただき火災や水害等の災害時にお互いに協力できるよう関係作りをしている。	消防署の協力で入居者も参加して避難訓練が行われている。職員のみで、2か月に1回の訓練が予定されているが、まだ実施されていない。食糧などの備蓄は用意されている。	夜間や水害等様々な場面を想定した訓練が必要と思われる。自治会の参加も含め、今後更に地域との協力体制を築くことができるよう期待する。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護は周知徹底し、対応については一人ひとりを尊重した声掛けを実践しています。また、本人様や家族様に了解を得て親しみを込めて呼びなれた名前で呼ばせていただく事もあります。	個々の入居者を尊重した声かけに気をつけ、プライバシーに配慮している。研修を重ねて日々研鑽し、不適切と思われることがあれば、その場で職員同士が注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で洗濯や調理、畑仕事など入居者様のしたいことができる時間を多く取り入れています。入浴や食事も本人様の希望される時間帯やペースに合わせています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段より入居者様の希望を聞き、個別のペースを心がけ一人ひとりの嗜好をサービスに組み込んでいけるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方にはお化粧の支援をしたり、男性の方には髭の手入れをしたり等、本人様の望む身だしなみができるよう努めています。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を聞き献立に取り入れています。また、盛り付けや片付け等、入居者様が出来ることをケアの一環として取り入れ役割となるよう支援しています。	職員と一緒に食事を楽しみ会話が弾んでいる。入居者と料理の本を見たり、入居者の言葉からヒントを得て献立に取り入れている。月2回のおやつ作りは入居者が主体的に行い、楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく様々な食材を使用したメニューを献立に組み込み、栄養バランスが偏らないよう努めています。水分や食事量を把握できるよう毎回チェックし記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕に口腔ケアを実施しております。また、外出後には手洗い、うがいを促しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄能力をアセスメントし、排泄パターンを把握しパターンに沿った誘導を行い、自立した排泄支援を行なえるよう努めています。	一人ひとりの排泄記録からパターンを把握し、プライバシーや尊厳を傷つけぬよう声かけに工夫しながら、自立に向けて支援している。入居後、自立できるようになった人も多くみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や身体を動かすレクリエーション等を取り入れ、なるべく自立した排便ができるよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様が希望される時間に入浴が実施できるよう支援しています。	広々とした洗い場のある浴場である。本人の希望に沿って毎日の入浴もでき、夜間も利用する事が出来る。声かけに工夫をし、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠られない方にはお茶を勧めたり、会話をして落ち着いて過ごして頂けるよう支援しています。入居者様の意思決定にて日中の休息もしていただいてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作成し職員一人ひとりが理解し間違いのないよう管理に努めています。また、薬に関して異常があれば薬剤師や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や調理、生け花等思い思いの時間を過ごされています。嗜好品に関しては主治医、家族様の了解の基、お酒やおやつ等も楽しんでいただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり定期的にドライブや喫茶店、買い物等を楽しめるよう、健康状態に配慮し支援を行なっています。また、季節ごとに花見や紅葉等で季節感を感じていただけるよう支援しています。	外出好きな入居者が多く、入居者の思いに沿えるよう、月２回はドライブに行くなど、外出支援に努めている。個別の入居者と散歩に出かけたり、喫茶店や外食に出かけることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了解のもと小額の小遣いを本人が所持管理し、困難な方は金庫に預かり必要に応じて出金し対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族様や知人の方と電話で話ができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室の温度、湿度管理を行い注意しています。周りの田んぼや庭の桜で季節を感じていただけるようにしています。また、その都度入居者様の状況に応じてテーブルやイスの配置を変えています。	玄関には生け花が得意な入居者が活けた花が飾られ、生活に潤いが感じられる。居間の一角にある畳スペースにはコタツも出され、昼寝をしたり、洗濯物をたたみながらおしゃべりをしたり、銘々が寛ぐ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの畳で横になられたり、一人で落ち着けるよう数箇所にイスを配置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具や家族様の写真等を持参していただき、落ち着いて生活ができるよう工夫しています。	部屋の入口には、陶芸教室で各自が作った表札が掲げられている。温度・湿度管理がなされている部屋には、使い慣れたテレビや冷蔵庫などが置かれ、安心して過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で移動や入浴、排泄等を入居者様の残存機能が十分活用できるよう配慮し介助しています。		